

『市』のある風景

『伝統の朝市』二・七の市を訪ねて

東の空が、紫色に染まる夜明け前

荷物を抱えて広場に集まる人々

あいさつを交わし、ごぎを広げる

並べるのは、手塩にかけた自慢の品だ

ほら、なじみの客の笑顔が見える

「今日も、おいでだね」

「いつも、ありがとさま」

何百年も、変わらない風景がそこにある

『二・七の市』

そこは、「まごころ」を買うことのできる場所

このまちに、『市』があつてよかった

